



東京麻布宮川
町小次郎の欲する親父
有その娘小次郎とつら
へ親父も似ねる顔
羨しおよき鳥をとりん
と芝の丸山へ茶店を出せ
親の心白銀又や寄せ
元山口縣の士族木田梅太郎といやん令
巡査勤甲折の休暇を安んずり茶を
天竺茶と名づる濃茶の中とをどしを
親父を知りてやろく云へん死
死ねと吉い文句は困累
世に多く香子の取あつ
元よりおのまねお母あれ
をア縁ふされ梅太郎
元の寄苗不隔ら娘の跡を遺ひて杉山一と先長門へ

大永堂
惺昇誌
敬の間違ひ
あまの
あんら
△さ
横え天に
扶り
先親父
へ廻り
娘をとりん
久せをよと伴内
もと松の里を終不
羅本の眼小次郎
双方論論は眼の中
聞全なも是公命の
敬の間違ひ

真信画

修政三代

